

フォーマルアプローチ論文特集の発行にあたって

フォーマルアプローチ論文特集編集委員会

委員長 酒井 正彦



次の話は、私が学生時代に講義中の余談として聞いたものである。

「昔、一度食べた『まんじゅう』というものが忘れられん。わしももう歳で先は長くない。作り方もわからんが、なんとかもう一度食べさせておくれ」息子の一人は、「白いが中に黒くて甘いものが入っているそうだから、とにかく作ってみよう。試行錯誤すればいい」もう一人は、「変なものを食べさせるわけにはいかないから、間に合わないかもしれないけど、ちゃんと解析して納得できたものを完成させるぞ」

これは、前者の「工学的アプローチ」と後者の「理学的アプローチ」の違いをたとえを使って説明したものである。今もう一度考えてみると、死ぬ前に本物を食べさせてあげられたのか、そうだとしたらどちらが成功したのか気になって仕方がない。とはいえ、両者が協力できればより成功に近づくことはおそらく間違いない。

さて、本特集も、昨年、一昨年に引続き、3回目を数えることになった。フォーマルアプローチ（形式的技法）は、信頼性の高いハードウェアやソフトウェアの開発における有力な基盤技術の一つであり、設計対象のモデル化、要求分析と仕様記述、コード自動生成、テストと検証、保守と再利用などに関する重要な基本技術を提供すると同時に、多くの基本的理論的知見を生み出してきている。近年、情報技術の進展に伴う分野の細分化により、フォーマルアプローチも各分野に

特化されますますます発展している。このような背景から、本会のフォーマルアプローチの関連研究者が中心となって、この分野に関連する分野横断的な知見を得ると同時に、若手研究者をエンカレッジすることを目的として本特集の企画を続けている。

本特集では、基礎理論、形式記述技法、設計検証技法一般、信頼性向上技術やそれ以外のフォーマルアプローチに関連する幅広い分野を対象に論文を募集した。その結果、5編の論文投稿があり最終的にはセキュリティ分野2編とデータベース分野1編の合計3編が採録となった。フォーマルアプローチという言葉からは最初の話での理学的なイメージが連想されるが、成功のためには現場発の研究との融合が望ましい。本特集が少しでもその役に立つのであれば幸いである。

最後に、厳しいスケジュールの中で編集に御尽力頂いた、亀山副委員長（筑波大）、石原幹事（阪大）、関幹事（奈良先端大）をはじめ編集委員、査読者、学会担当者に感謝します。

さかい まさひこ
酒井 正彦(正員) 1989名古屋大学大学院博士課程了。同年名古屋大学工学部助手、1993北陸先端科学技術大学院大学助教授、1997名古屋大学工学研究科助教授、2002同教授、2003同大学情報科学研究科教授、現在に至る。この間、1996年3月～8月ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校客員研究教授。工博。項書換え系などのソフトウェア基礎理論に関する研究に従事。平3年度本会論文賞受賞。ソフトウェア科学会会員。

フォーマルアプローチ論文特集編集委員会

委員	長	酒井正彦	井山幸義	正幸哲	関浩之	栗原正仁	高橋孝一	中田明夫
副委員	長	石磯平渡	原部石部	祥邦卓	村	上昌己	結縁祥治	米田友洋
幹事	員							
委								